神戸学院大学
KOBE GAKUIN UNIVERSITY

Vol. 5　2025年7月

地域研究センター通信

CENTER FOR AREA RESEARCH AND DEVELOPMENT
CARD
KOBE GAKUIN UNIVERSITY

地域と連携し、公開講座、ワークショップおよび演劇公演を行う当センターの活動・研究をご紹介します

今号の内容

大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ
開催予告・神社でリーディング公演
『かもめ――ニーナの恋』
中山文……❶

大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ
開催予告『たこ文庫×神戸学院大学ワークショップ―ゲーム感覚で本を紹介しあおう』
金益見……❶

大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ
開催報告『朝霧川源流を訪ねて』
矢嶋巌……❷

研究こぼれ話
『岩井種玄と梁田蛻巌の碑』
中村健史……❸

地域研究長田センター写真展の紹介
鈴木遥……❸

大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ
開催報告『「喜春城」へようこそ』
中村健史……❸

2025年度大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ開催予定……❹

7.27 大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ2025

来たる文豪チェーホフの世界

人文学部　中山ゼミ生
今年も稲爪神社にてリーディング公演

『かもめ――ニーナの恋』

『かもめ』、19世紀末ロシアを舞台に描かれる演劇史に燦然と輝く名作。

女優を志すニーナに、新進作家を目指す若手劇作家と、中年の流行作家を配し、美しい湖を背景にさまざまな恋が織りなす人生模様。純粋なものが世の凡俗なものの前に滅んでゆき、ニーナは謎めいた言葉をもらす――「私はかもめ」。それぞれが心に秘める「かもめ」の運命は？

地域と連携して、稲爪神社での学生演劇上演は今年で3回目になります。学生が舞台に立つことによって人前に立つ自信をつけ、地域広報活動やスタッフワークで協調性や社会性を学んでいます。親しまれる神社で地域の方々と文学に触れる機会を大切にしたい。

2025年 7月27日(日)　15:30開場　16:30開演

16:00～　長谷川弘基教授によるレクチャー

入場無料　※申込不要です

場所　稲爪神社　社務所　→

8.18 大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ2025　図書館でワークショップを開催します

人文学部 准教授　金益見

会場：あかし市民図書館　研修室
日時：2025年8月18日(月)
15時～
定員：20名程度(先着順)

申込方法については追って地域研究センターウェブサイト等でお知らせします。
※ 連絡先、ウェブサイトへのアクセス等はこの通信の 4p をご参照ください。

昨年夏のたこ文庫ワークショップの様子

8月18日(月)15時より、あかし市民図書館で「たこ文庫」カードを利用した『たこ文庫×神戸学院大学ワークショップ―ゲーム感覚で本を紹介しあおう―』を開催します。「たこ文庫」カードは、15枚のカードを引いて、出た「お題」に沿った本を紹介してゆくという、ゲーム性を持った自己紹介ツールです。

「10代の図書館利用者に本と親しむ機会を提供できないか」という図書館側の依頼を受け、本センター教員が中心となって企画を練りました。今回は10代の参加者を広く募集しますが、興味を持たれた親御さんがお子様と一緒にご参加されてもOKです。

ゲーム感覚で本の紹介から読書経験の共有へも広がるひととき

本をきっかけにして、いろんな人とおしゃべりしてみましょう。あなたの世界がきっと広がるはずです。

開催報告　6.1　大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ 2025

『朝霧川源流を訪ねて―朝霧川源流域の自然・歴史・暮らしを探求―』を開催しました

人文学部 教授　矢嶋巌

神戸学院大学有瀬キャンパスは、二級河川の朝霧川の上流に位置しています。この川でつながる明石市の朝霧校区まちづくり協議会と本学地域研究センターが市民を対象として企画した、朝霧川源流域である神戸学院大学有瀬キャンパスと北側の漆山上地区を見学するフィールドワーク・ワークショップが6月1日(日)に行われました。朝霧小学校区まちづくり協議会の西谷寛氏、人文学部の大西慎也教授、川上靖教授、矢嶋巌教授、曽我部愛准教授、中村健史准教授、福島あずさ准教授、三田牧准教授、白方佳果講師、鈴木遥講師が、解説役やワークショップのファシリテーター役を務めました。参加者は58名にのぼり、盛況となりました(人文学部学生2名を含み、運営に当たった教員・大学院生をのぞく)。

11号館1階ホールで矢嶋教授と西谷氏による開会挨拶が行われたあと、矢嶋教授よりかつて本学の陸上トラックがあったため11号館付近が平らであることや、有瀬キャンパス内の西細谷の斜面の地層に含まれる礫層に関する説明を受けてから、大西教授より、キャンパスが位置する台地と伊川や朝霧川が谷を刻んでいる地形についての説明を受けた後、キャンパス北端に至りました。ここで、地元在住の花農家で神戸市のアグリマイスターでもある八木清豪氏から、キャンパス北側が他の地域から運んできた土によって西細谷が埋め立てられて用地が造成されたとする説明を受け、西細谷の水路や西細谷の地名を持つ小公園を確認してから東細谷公園へと移動し、曽我部准教授より有瀬キャンパスが位置する有瀬の漆山地区の新田開発が江戸時代に新田開発が進んだ三期のうちの最初に当たることについて説明を受けました。

駐輪場では、大西教授から有瀬の台地においてバス道が朝霧川と明石川支流伊川の分水嶺であることが説明されました

東細谷公園では、曽我部准教授から有瀬キャンパスが位置する漆山新田の開発時期についての説明がありました

続いて、八木氏が花を栽培する温室を見学し、伊川谷の花栽培の歴史や神戸学院大学開学にともなうこの地区の暮らしの変化についての話を聞きました。その後有瀬キャンパスに戻り、鈴木講師から弓道場付近の植生についての説明を、川上教授からドングリによく見られるゾウムシについての説明を受けました。続いて、有瀬図書館がモダニズム建築家によって設計されたこと、第1グラウンドが西細谷の洪水調整池を兼ねていること、有瀬図書館新館下の新池が西細谷の雨水を受け止めていることについて、矢嶋教授からそれぞれの場所で説明がありました。

弓道場付近では、周囲に落ちているどんぐりに見られることが多いゾウムシについて川上教授から説明されました

後半のワークショップは、115G教室で班に分かれて行われました。まず福島准教授から朝霧川で発生した4つの水害と気象条件についての説明を受けたあと、中村准教授から漆山の新田開発を命じた第6代明石藩主松平日向守信之とその遺徳を偲んだ漆山の農民たちによって建てられた記念碑についての説明を受けました。続いて、西谷氏より朝霧川中流で毎月第4日曜日に取り組んでいる生き物観察会の活動についての紹介があり、八木氏からは明石市と神戸市の境界付近に位置する有瀬キャンパス東方の道路整備に関する逸話などが紹介されました。

福島准教授から、これまでに朝霧川で発生してきた水害と気象条件についての新聞記事を活用した説明がありました

西谷氏が朝霧川中流の親水広場で取り組んでいる、こどもたちを対象にした生き物観察会について紹介がありました

この後、参加者がそれぞれ感じ入った点を模造紙に書くことにより班ごとに共有する取り組みが行われました。このうち、人文学部・地域研究センターが連携している明石市立松が丘小学校の教諭が参加した班では地域理解のために役立ったことが述べられた一方、孫が通っている学校の先生が参加されていることに感激したとのコメントもあり、会場は大いに盛り上がりました。

最後に、中村准教授の司会により、今回の行事を終えて、地域研究センターや神戸学院大学の今後の地域連携の取り組みに期待することを班ごとに話し合い、各班から代表者が意見を述べました。そのなかには、いろいろな分野の大学教員から話を聞けた点がよかった、今回自ら体験し互いに話し合って学びあった点がよかった、よくわからない源流の場所を明らかにして次こそ訪ねる企画をして欲しい、拡声器を使用して説明が聞こえるようにして欲しいといった意見があり、参考にして改善していきたいと中村准教授が述べました。

さまざまな方が混じって行われたワークショップは大変な盛況となりました

研究こぼれ話

岩井種玄と梁田蛻巌の碑

人文学部　准教授　中村健史

明石にお住まいの方であれば一度は林崎堀割について聞いたことがおありでしょう。万治元年（一六五八）、和坂、鳥羽などの村々によってひらかれたこの水路は、藩内に大きな恵みをもたらしました。その功績を記念するため、元文四年（一七三九）には現在の明石市明南町に「林崎掘割渠記碑」が造られています（市指定文化財）。

石碑の末尾には建立者として岩井半太夫種玄という郡代（藩内の地方行政を担当する役職）の名前が刻まれています。一体どんな人だったのか、長らく気にかかっていたのですが、忠度塚（明石市天文町）の碑文にも「岩井種玄すなはち鎮に聞き、つひにこれを石に刻み」（岩井種玄がわたしの文章の噂を聞きつけ、石碑にした）と出てくることに最近気づきました。

忠度塚の碑も、林崎堀割の碑も、撰文はともに明石藩に仕えた儒者梁田蛻巌が担当しています。どうやら蛻巌と仲がよかった岩井さんは、郡代という立場を利用（？）してあっちこっちの史跡顕彰を行っていたらしい。風雅の道にも明るく、当時の藩主が月照寺へ百首和歌を奉納した際には、「咲きしより散りなんことのつらさまで思ひなづめる花の木の下」という歌を詠んでいます。ちなみに娘さんは蛻巌の弟子、大畠梅嶼という人に縁づいていたのだとか（梅嶼の墓誌による）。

ついでに言っておくと、林崎堀割渠記碑の清書をした田原何竜も蛻巌の友達でした。作品に付した解説の文章や、その死を悼む詩が『蛻巌集』に収められています。交通が未発達で情報も限られていた時代には、何をするにもまず人の縁に頼るのがあたり前のことだったのでしょう。岩井種玄や田原何竜の協力がなければ、いかに名儒蛻巌といえどもこれほどたくさんの石碑を明石に残すことはできなかったに違いありません。

開催報告

6.14　大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ 2025

人文学部　准教授　中村 健史

2025年6月14日（土）、あかし市民図書館において人文学部の中村健史准教授が『「喜春城」へようこそ―明石城をうたう文学―』と題して講演を行いました。この講演は同館との共催で実施されたもので、当日は満席（30人）となる盛況でした。

明石城には古くから「喜春城」という雅称があり、江戸時代の儒者・片山兼山による命名と伝えられてきました。中村准教授は1680年に刊行された『扶桑名勝詩集』に「播州明石城十境　喜春城」とあることから、命名者は片山兼山（1730年生まれ）ではないと指摘。また同書に「明石城ではいったん春の気が動きはじめると、少しも寒さを感じない」という漢詩が収められていることから、「喜春」は明石が播磨南部に位置し、温暖な気候に恵まれたことを讃えた表現なのではないかと見解を述べました。

神戸市長田区のふたば学舎で写真展を開催中

人文学部 講師　鈴木 遥

神戸学院大学地域研究センターでは、神戸市長田区にあるふたば学舎の一室に地域研究長田センターを構え、地震防災・まちづくり支援などの教育研究活動を継続しています。

地域研究長田センターでは居室前面を活用した写真展を４月より開催しています。2024年度に行った地域研究センターの教育研究活動の中から、地域の伝統行事、北野や新長田のまち散策、播磨のため池のかいぼり、新長田にある日本語学校との学生間交流会などの写真を、教員が中心となって選び、キャプションをつけました。

写真展は常時行っています。今後はテーマを絞った写真展を行うことや、大学生と地域の方々との交流活動を実施することも計画中です。ふたば学舎にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

年間予定

『大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ』は神戸学院大学人文学部地域研究センターが主催する講演会、ワークショップ、演劇公演などの総称です。さまざまな活動を通じて「人文学の知」を地域に提供します。

参加無料

開催日時	テーマ	講師	会場
6/14(土) 10-12時	「喜春城」へようこそ－明石城をうたう文学－	本学人文学部准教授 中村　健史	あかし市民図書館
7/5(土) 11-12時	稲光 稲妻 やむことなし－稲爪大明神の物語－	本学人文学部准教授 中村　健史	明石ハウス (申込み不要)
9/20(土) 14-16時 (予定)	わが町の台本を作ろう －明石市民によるアタシノアカシ－	本学人文学部教授 中山　文ほか	あかし市民図書館
9/24(水) 18-19時	秋の鳴く虫の夕べ－虫の音聞き分け講座－	本学人文学部教授 川上　靖	明石ハウス (申込み不要)
10/11(土) 14-16時 (予定)	五色塚古墳は畿内大和王権の関所か －旧播磨国東端と西端の前方後円墳の評価－	本学人文学部元教授 琵琶湖博物館名誉学芸員 用田　政晴	あかし市民図書館
10/26(日) 10-12時 (予定)	江井島海岸の藻が教えてくれること －身近な環境の保全について考える－	本学人文学部講師 鈴木　遥	あかし市民図書館
11/9(日) 13-14時半 (予定)	二見にあった二つの紡績工場のこと －播磨地方の木綿づくりの系譜－	本学人文学部教授 矢嶋　巌	明石市立西部図書館
11/19(水) 18-19時	中世の厳島参詣と瀬戸内海交通 －平氏一門の厳島信仰を中心に－	本学人文学部准教授 曽我部　愛	明石ハウス (申込み不要)
2/8(日) 13-15時 (予定)	マイノリティと向き合う －メディア・リテラシーとエンパシーを身につける－	本学人文学部准教授 金　益見	あかし市民図書館
2月中	ビジネス講座	本学人文学部講師 新居田　久美子	あかし市民図書館

会場

ワークショップ・演劇公演

開催日時	テーマ	講師	会場
6/1(日) 13時半-16時半	朝霧川源流を訪ねて －朝霧川源流域の自然・歴史・暮らしを探求－	海と空の約束ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ 西谷　寛 本学人文学部教授 矢嶋　巌ほか	神戸学院大学有瀬キャンパス及び周辺
7/27(日) 15-17時	学生演劇 リーディング公演 『かもめ――ニーナの恋』	本学人文学部 中山ゼミ学生	稲爪神社 (申込み不要)
8/18(月)15時-	たこ文庫×神戸学院大学ワークショップ －ゲーム感覚で本を紹介しあおう－	本学人文学部准教授 金　益見ほか	あかし市民図書館
2月中	市民演劇公演	本学人文学部 中山文ほかによる指導	あかし市民図書館

明石ハウス

申込方法：あかし市民図書館、明石市立西部図書館での開催回は、時期になったら、地域研究センターブログ(↙QRコード参照)で申込方法をお知らせします。□の回は申込み不要ですが、会場が手狭なため、定員に限りがあります(15名程度)。

活動拠点

地域研究長田センター (旧二葉小学校) ふたば学舎3階

〒653-0042神戸市長田区二葉町7-1-18

地域研究長田センターは、地域と協働した実践的な研究を行う拠点として2010年11月に開設されました。開設時に地震・気象計測システムを設置し、今日まで観測を続けています。データ研究の一部を神戸市委託事業「異常高温対策に関する調査報告(2018年度)」に活用しました。

また、地域研究や社会学などを履修する学生の長田地域におけるフィールドワーク活動も行われています。

明石ハウス

〒673-0871明石市大蔵八幡町5-23

TEL 078-995-5414

明石ハウスは、神戸学院大学が大蔵八幡町にお借りしている研究活動拠点です。建物（大塩邸、明治30年代後半築）は、明石市の都市景観形成重要建築物に指定されています。

Access アクセス

■バス：　神姫バス「黒橋」下車、徒歩9分
■電車：　JR「明石駅」下車、徒歩15分、
　　山陽電車「大蔵谷駅」下車、徒歩5分
■車：大蔵海岸西駐車場（有料）をご利用ください

神戸学院大学　地域研究センター通信
〒651-2180神戸市西区伊川谷町有瀬518　TEL：078-974-4232 FAX：078-974-4258
https://card-kobegakuin.jp　E-mail：frb@human.kobegakuin.ac.jp
発刊：2025年7月　発行：神戸学院大学地域研究センター（有瀬キャンパス3号館6階）

神戸学院大学 KOBE GAKUIN UNIVERSITY